



2015
06

2015年6月30日発行 まちサポ FUJI-mini 通信 - 第6号
発行元 : 特定非営利活動法人 まちづくりサポーター FUJI
(浜松事務所) 〒430-0923 静岡県浜松市中区北寺島町 211 番地の 19
電話 : 053-525-8511 FAX : 053-533-3203
(静岡事務所) 〒424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町 1074 番地
電話 : 054-340-2005
E-mail : info@npofuji.jp HP : http://npofuji.jp

女もすなる都市計画 開催報告！ 6月10日、22日開催 「都市の理想像を考える」第六回 in 静岡 / 浜松

戦後、ものづくりにおいて、西洋のものまねと揶揄されながらも高度化させ、世界を驚かす独自の技術力で発展した日本。都市づくりでも同様にことをやり得たのであるうか。

◆田園都市論 ～レッチワース VS 田園調布～

ロンドンの急激な人口集中による環境悪化や貧困問題、スラム化と深刻な問題をもたらした産業革命。1898年この反面教師として田園と都市が融合した形を目指す「田園都市論」が提唱された。①土地は共有、借地権で運用、②開発利益はコミュニティに還元、③職住近接、④エネルギー効率の良いエコノミーな美しい都市等が掲げられ、現在でも通じる理論として再評価されている。レッチワースで実践され日本でも田園調布で実践された。しかし、レッチワースが理想都市を維持している一方、日本では固定資産税、相続税対策により個人の利益の為、土地が細分化・売却、理想像とは異なってきている。

◆近隣住区論 ～千里ニュータウン・多摩ニュータウン～

1929年、人々は良好な地域コミュニティの中で暮らすべきという理念のもと、ニューヨークの地域計画の一つとして発表された。①住区の規模は歩いて通える半径400m以内の小学校区、②境界は幹線道路(通過交通排除)、③充分なオープンスペースの確保、④商店は住区周辺の交通結節に近接して配置、などが掲げられている。

日本でもニュータウン構想として、増加する人口の受け皿となる開発において一定の成功をおさめたが、**人口が減少する今、住民の**

2014年度 調査研究事業の発表を行いました！

去る6月14日(土)まちづくりフォーラム2015「みんなでいい浜松作りましょう！」において、平成26年度まちづくり活動助成事業成果発表会があり、「モビリティマネジメント促進に有効な交通情報提供手段の研究」と題して、当NPO事務局金山が報告発表を行った。(FUJI-mini 通信 VOL.3、<http://npofuji.jp/web1/fujituushinpage>)

活動部門では、「中沢町界限歴史散策と古本店マップの作成」、「二俣-昭和レトロなまちづくり」、「まるたま市」の3つの発表があった。

活動継続の共通課題認識として、具体的な目的・目標の明確化、助成金・補助金に頼らない活動化、新聞等のマスコミメディアを通じた情報発信、他団体との連携による負担軽減と広がりづくり、地域人材発掘(アーティストの他、個々の能力や専門知識の組み合わせ)、参加型活動、EC販売の活用などがあげられた。

調査研究部門では、当NPOの他、「市街化調整区域の地区計画の実施状況調査 地震・津波防災まちづくりと卸本町の地区計画検証」の発表があった。卸本町は、市街化調整区域にありながら、繊維の街(問屋街)、商業業務集積地で反映してきた。ここでは中心市街地同様の賑わい、用途の自由度の要望があり、2005年、100%の地域の同意を得て、全国的に稀な上記要望を反映した地区計画を導入した。しかし、卸売業をとりまく環境は変化し、賃貸物件もこの10年間で17から28に増えた。主要施設の老朽化が進み、耐震・津波対策、ストック利用と時代の流れを受けた地区計画の見直し検討の報告がされた。制度議論だけでなく内省的な変化の必要性を感じた。



高齢化、老朽化、ニュータウン周辺の都市化、地域商業の衰退と再生、交通網の再整備、等新たな問題に直面している。

◆コンパクトシティ ～富山市～

1990年、E・U「都市環境に関する緑書」において、2050年の世界90億人時代に世界のすべての人が「生活の質」を向上・維持しながら地球上の有限資源を賢く循環させる社会の都市空間としてコンパクトシティを提示。日本では、中心市街地活性化に関連し注目された。

その実践例が富山市で、一定頻度以上の「公共交通」を串、串で結ばれた「徒歩圏」を団子とし、「串と団子」の都市構造の整備に取り組んでいる。ここには薄く低密度な市街地、自動車交通への高依存度という都市特性の解消が背景・目的にある。

◆「開発・拡大の都市化」から「保全・維持更新の都市型」へ

理想型都市とされるコンパクトシティの具体的なイメージは、過去の理想都市論の組合せの様である。①買い物・学校、医療、消防等の日常利用頻度の高い機能は生活の場に近接、②教養・文化・娯楽・高度医療等の利用頻度の高くない機能は広域サービスでシェア、③余地は緑地等の都市アメニティ向上の土地利用へ、④これらのサービスへ誰でも容易にアクセスできる地域間交通網である公共交通の存在。理想論だけでは、魅力的な都市には近づけない。今やるべきは一律の理想を語ることでなく、個々の都市があるものを活かし、都市間競争に打ち勝つ個性と魅力を真剣に住民自らが考え実践することである。

ちょっと注目！

気になるまちづくり、いろいろ。

北陸新幹線開通に合わせ、北陸の都市では、ICTを活用した情報提供による公共交通活性化を主軸においた地域活性化取組がされている。富山県富山市のLRT(次世代型路電車システム)取組を取り上げる。LRTは、Light Rail Transitの略で、低床式車両(LRV)の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システムのことである。欧米では良く見かけるが、近年、日本でも道路交通を補完し、人と環境にやさしい公共交通、環境負荷の小さい交通体系の実現に有効な交通手段として再評価されている。

富山では、このLRT沿線において「富山まちあるき ICT コンシェルジュ」という交通とまちの情報を双方向、クロスのに配信・受信するシステムの提供による地域活性化に取り組んでいる。主なサービスは、①デジタルサイネージシステムをLRT車内で展開し、運行位置に合わせて沿線店舗の広告をタイムリーに提供。LRT車内に限らず街中・駅などでも同様に提供、②スマートフォンで稼働するAR(Augmented Reality: 拡張現実)システムを使い、かざすだけで簡単にまちなか情報を取得可能、③スマートフォンに走行位置など運行状況に関する情報をリアルタイムに提供といった点である。

注目すべきは、まちあるき情報を提供することでにぎわい創出を目指すとともに、歩行者等の動態データ集約・分析し将来にむけたまちづくりに活用している点である。※<http://npofuji.jp/web1/fujituushinpage>



まちサポFUJI 理事コラム⑥

理事 竹之内博行

(一社)・施工技術総合研究所・技師長
 専門分野：構造力学・維持補修・建設施工



【遊びと仕事とNPO】

遠い昔の学生時代に、ホイジンガという哲学者が書いた『ホモ・ルーデンス』(=遊ぶ人)という本を読んだことがある。(もちろん、翻訳本です。)この本は、人間の本质は遊びにあるとして、「文化こそ遊びから生まれる」と主張したものだ。この哲学書を、「まず遊ぼう、これが人間だ!」と、うーんと浅くひくくって、大学での勉強はそっちのけで遊びほうけていた自分を正当化していた楽しい時期があった。その後40数年、社会の一員としてある程度まじめに仕事をしてきたつもりだが、やはり行動の動機は変わっておらず、遊びの最も基本的な要素である「面白さ」の追求であったように思う。

こんな私の専門は「社会インフラの維持管理」(道路や橋を点検して壊れているところを直して安全にする仕事)という分野で、まちづくりには欠かせないハードの部分だ。その経験をまちづくりに生かすべくこのNPOに参画させて頂いている。この分野は最近やっと世間から少し注目されるようになってきたが、その最前線はまだまだ3Kで、技術者不足が課題とされている中、比較的高齢のベテラン技術者が歯を食いしばって頑張っている状況である。

私にとっては大変楽しい仕事で、遊びと区分するのは難しい。損傷の写真撮影には、スキューバダイビングで水中の魚の写真を撮るテクニックが生かされるし、点検で這いずり回る橋梁でも、登山

や踊りで鍛えた身のこなしが役に立つ。損傷の原因究明ではシャーロックホームズばりの謎解きで勝負し、独自の発想で実験してそれを証明し、誰もやっていないような方法で直すことを考える。まさに、遊びの3要素である緊張、遊び、面白さの連続だ。

この分野でも最近ではロボットの活用とかIT技術の導入などに大きく旗が振られており、それはそれで必要で楽しいのだが、やはり本当に必要なのは人だと思う。しかし、まだまだこの分野を目指す若者は多くはない。それなくしては安心・安全な社会インフラは実現できないことは明白なのに。多くの優秀な若者がこの分野を目指すようなイノベーションが必要だ。

人間の本质が「遊び」なら、まちづくりの基本も「遊び」のはずだ。遊び心満載の当NPOのメンバーとともに、「遊ぶ」精神で「まじめ」に活動したいと思う。

(プロフィール)

東京工業大学土木工学科卒。卒業と同時に(一社)日本建設機械施工協会施工技術総合研究所に入所。主に橋梁など構造物の強度・耐久性や補修・補強技術を専門とする。関連する計測技術や装置の開発にも多数参画。社会インフラの維持管理を中心に技術の高度化、安全・環境問題、技術者の育成等の業務に従事。

【メッセージ】知識と実践、産官学ネットワークで地域のインフラを守る。

今後の活動情報

◆ 講演会 ◆

多業種多分野の著名な方々をお招きし、それぞれの立場・視点からまちづくり・むらづくりの課題、将来像を語って頂く講演会・交流会(軽食付)を開催しています。

日時	テーマ・内容	場所
2015年 9,10月予定	第六回 (仮) 防災・減災 ~現場力を活かす~	三島市
2016年 1,2月予定	第七回 (仮) 健康と都市の魅力	未定

○各回資料代：非会員500円/人(税込)、正会員無料。

◆ 勉強会 ◆

女もすなる都市計画 ※日程は変更になる場合があります。

静岡会場：毎月第2水曜日 18時30分～ 次回7月8日(水)

浜松会場：毎月第4水曜日 18時30分～ 次回7月22日(水)

○各回費用：1000円程度(お茶・軽食代含)。各回のみ参加も可能。

◆ 原田橋に関する意見交換会 事務局より ◆

当NPOでは、平成27年1月31日に発生した浜松市天竜区原田橋再建に向けた『原田橋に関する意見交換会』の事務局を務め、専用HPにて情報配信を行っています。http://www.haradabashi.com/

◇ お申込み方法 ◇

本誌右下の連絡先まで、FAXまたはE-mailにて、①ご参加希望の講演会または勉強会の名称・開催日・勉強会は会場、②お名前、③ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、④ご所属、⑤交流会への参加有無をご連絡ください。費用は当日受付にてお支払ください。※最新情報は、当NPOのHP(http://npofuji.jp)をご参照ください。

会員募集

当NPOの趣旨にご賛同いただき、会員になってくださる方を募集しております。まちづくり・むらづくりに関心のある、支援・参加したい方々をお待ちしております。正会員には講演会レポートや会報「FUJI通信」の送付、当NPO主催の講演会等への参加費の割引/無料等の特典がございます。

○会費：

入会金) 正会員 3,000円 賛助会員 1,000円
 年会費) 正会員 6,000円/一口 賛助会員 1,000円/一口

○振込先：

静岡銀行清水中央支店(店番144)普通 0950668

特定非営利活動法人まちづくりサポーターFUJI

理事 川口宗敏

トクヒ) マチヅクリサポーターフジ

○お申込み：

上記振込先にお振込み後、下記連絡先まで、FAXまたは、E-mailにて、①お名前、②ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、③ご所属、④お振込み口数をご連絡ください。ご連絡先は、お勤め先でもご自宅でも結構です。後日、領収書と会員番号をお送りします。

連絡先



NPO法人まちづくりサポーターFUJI 事務局

電話 : 053-525-8511 FAX : 053-533-3203

E-mail : info@npofuji.jp